

子育てに活用する識学
～親が子どもにすべき「育成」とは～



SHIKIGAKU

MANAGETECH COMPANY

コンサルタント紹介



コンサルタント略歴：

2017年入社 事業戦略本部 本部長/上席コンサルタント

- ブリティッシュ・カウンシル（英国大使館文化部）PRマーケティング&セールス部長
- 英国国立ウェールズ大学経営大学院MBAプログラム マネージングディレクター
- ヒューマンアカデミー株式会社 インバウンド・アウトバウンド留学事業/日本語学校事業 事業部長
- Southeast Missouri State University（米国）inbound student academic advisor
- University of Central Missouri（U.S.）Master of Teaching English as a Second Language（英語教授法修士）取得

マネジメント経験：

100名以上/日系/外資/政府機関/民間/グローバル

父親としての紹介



親としての自己紹介

長女 12歳、次女 9歳、三女6歳

49歳 結婚16年目

家庭内の位置関係

奥さんに識学を伝えているので、基本家庭内は識学で動かしています。奥さんも家庭内の最終決定は夫がするという観点で動いてくれていて、位置を作ってくれています。

■最近のトピック

長女の学力が伸び悩み

次女のアレルギーの対応

三女が小学校に上がって大きな機会変化。

奥さんのPTAが誤解と錯覚だらけ。

ファミリーキャンプが趣味。昨年24回キャンプに行きました。

識学とは

識学 理念

「全ての人にとって有益な存在であり続けること」

株式会社識学 企業理念

「識学を広める事で

人々の持つ可能性を最大化する」

**識学は組織論ではなく、あくまで個人の可能性
を最大化するもの**

2つの弊害

家族 = 子どもが所属する最初のコミュニティ

家族で誤解・錯覚があると2つの弊害が起こる

- ① 家族でいることの有益性を感じられなくなる
- ② 子どもが社会で有益性を発揮できなくなる

家族内で識学が実現すること

事実の仕組み

= 個人と組織が継続的に有益性を発揮できる仕組み



会社では経営者の役目

家族を事実の仕組みでマネジメントすると

⇒ 子どもが社会に出た時に事実の仕組みで動けるようになる

⇒ これこそが親が子どもにすべき「育成」

育成

育成

教育

必要な情報のインプット

教育を続ければ、
育成ができると錯覚

管理

結果の完了

- ・ 結果明確
- ・ 不足明確
- ・ 次の結果明確
- ・ 行動変化明確

家族と会社の前提条件の違い

会社 = 市場への有益性拡大が目的。社員は糧（収入を得る）ということが主たる活動目的。乗り換えも自由。

家族 = 家族自体が市場へ価値提供する訳ではなく、生活の基盤としてのチーム。家族メンバーは収入を得るための活動ではなく、感情的な繋がりも主たる目的ともいえる。乗り換えが難しい。

子ども = いずれ出る社会で有益性を発揮するように育成するのが子育てであり、中長期的な視点がより求められる。

位置：感情的にならない

位置認識⇒組織（コミュニティ）が機能的に動くための前提条件

親⇔子の位置関係は上司⇔部下の比にならないほど、明確な位置関係がある。

家族はそもそも夫婦の感情で始まった関係であり、そもそも位置関係がない

⇒家族や夫婦関係の継続を考えると、機能的に稼働するという側面を入れることをおススメします。

すなわち、ルールのある会話にする

識学的アプローチ① ルールで会話

ルールがない会話

- 部屋の掃除くらいしなさいよ、いつも部屋が汚い！
- いつまでYouTube見てるの！そんなに見てると中毒になるよ！

ルールがある会話

- 20時になったら毎日、自分の部屋の掃除をするルールだよ。
- YouTubeは1日1時間というルールだよ。

解説

事前にルールがあるとルールを守ろうと指摘できますが、ルールがないと、親の言っていることが正しいと説得/納得させなければならない。子どもと議論したり、子どもも親と交渉をしようとしみます。親も面倒になり、怒鳴ったり、怒ったり、気を使ったり、育児のロスタイムが生まれます。

識学的アプローチ② ルールを明確にする

ルールが曖昧な会話

- 家を出る時は忘れ物がないようにチェックするルールなのに、また忘れ物！
- 学校から帰ってきたら、まず明日の準備をするルールでしょ！何やってるの！

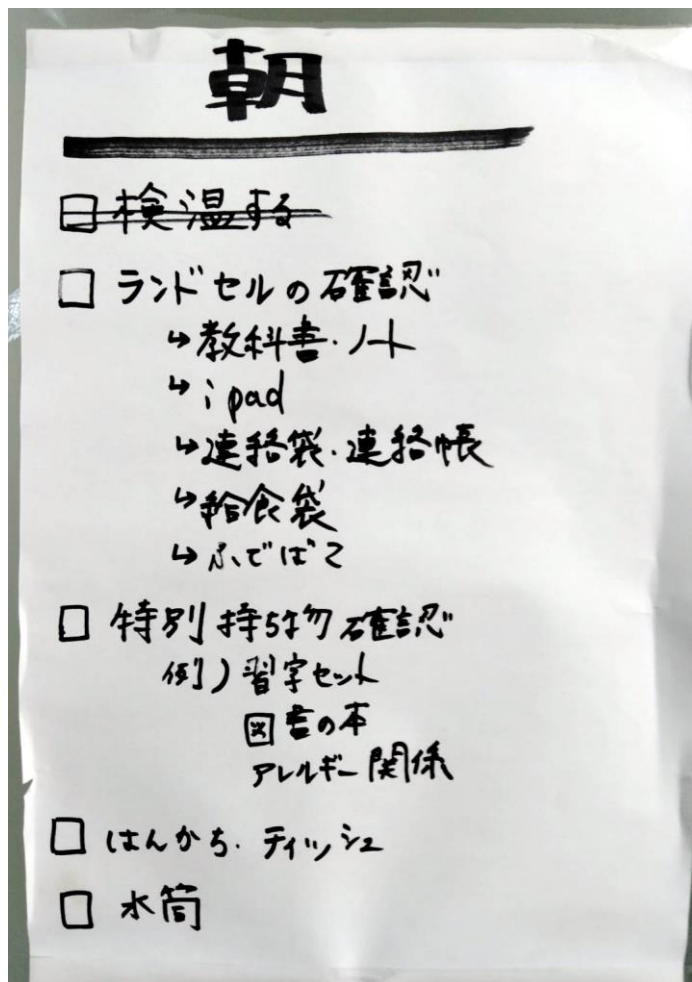
ルールが明確な会話

- 家を出る時は忘れ物チェックリストでチェックして、お母さんにOKもらうルールを守ってね。
- 帰宅したら、帰宅時チェックリストをすべて実施するルールを守ってね。

解説

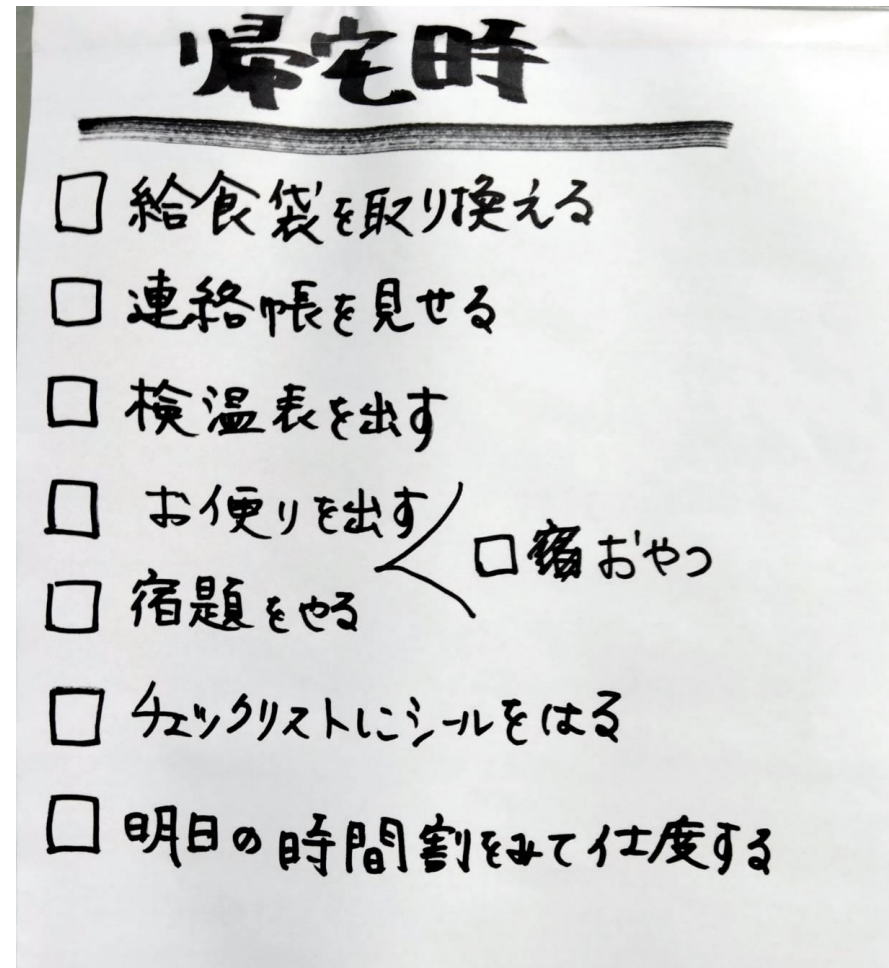
子どもと大人の当たり前の基準はかなり違いますし、子どもはすぐ忘れてたり、成長段階によって認識もズレます。認識がズレたら親側の工夫が必要と考えてください。次のページにサンプルを掲載します。

【参考資料】 ルールサンプル



←朝のチェックリスト

帰宅時のチェックリスト→



識学的アプローチ③ 結果で会話

結果が曖昧な会話（経過で会話）

→もっと勉強しなさい。もっと頑張りなさい。もっとしっかりしなさい。

結果が明確な会話（結果で会話）

→算数の小テストで月3回は90点以上取ろう。

解説

ルールは難易度が無いもので、生活の基盤を作るもの。結果は難易度があるもので、実現するために頑張らないといけないもの。結果設定をしないと、やり方（プロセス・経過）に関する会話が多くなり、子どもが経過アピールしたり、経過で満足して、結果を改善する思考が育ちにくくなります。

識学的アプローチ④ 結果と経過

結果が明確だとやり方を子供が考え、自立する。

→小テストで90点取るために、どうしたらいいか考える。

経過で会話すると親の顔色を見たり、言われた通りにすることがゴールとなり、自分で考えない子どもになる

→頑張って勉強したよ！と勉強した時間をアピールして、結果が出なくても言い訳したり、「じゃあ、どうすればよいの？」と親に依存する。

解説

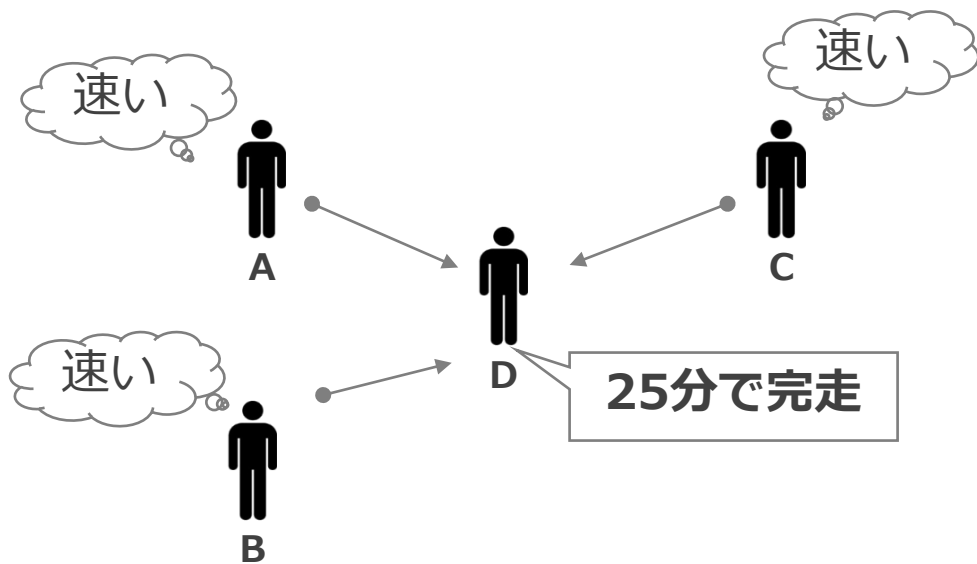
「ルール」と「結果」を活用したアプローチをご紹介しましたが、親も子どもも集中力が高まるルール設定、結果設定を完全結果と言います。

識学的アプローチ⑤

完全結果

完全結果

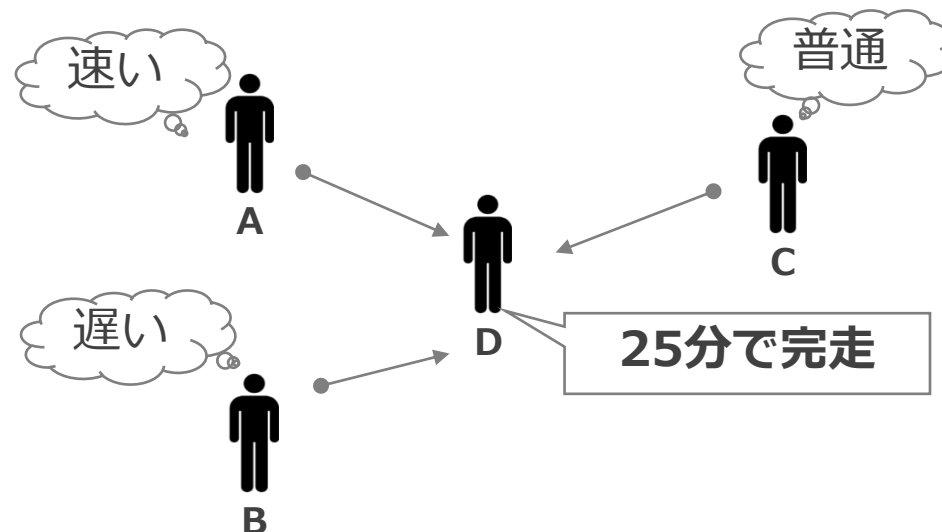
5km/30分で走る



本人と他者との認識にズレがない

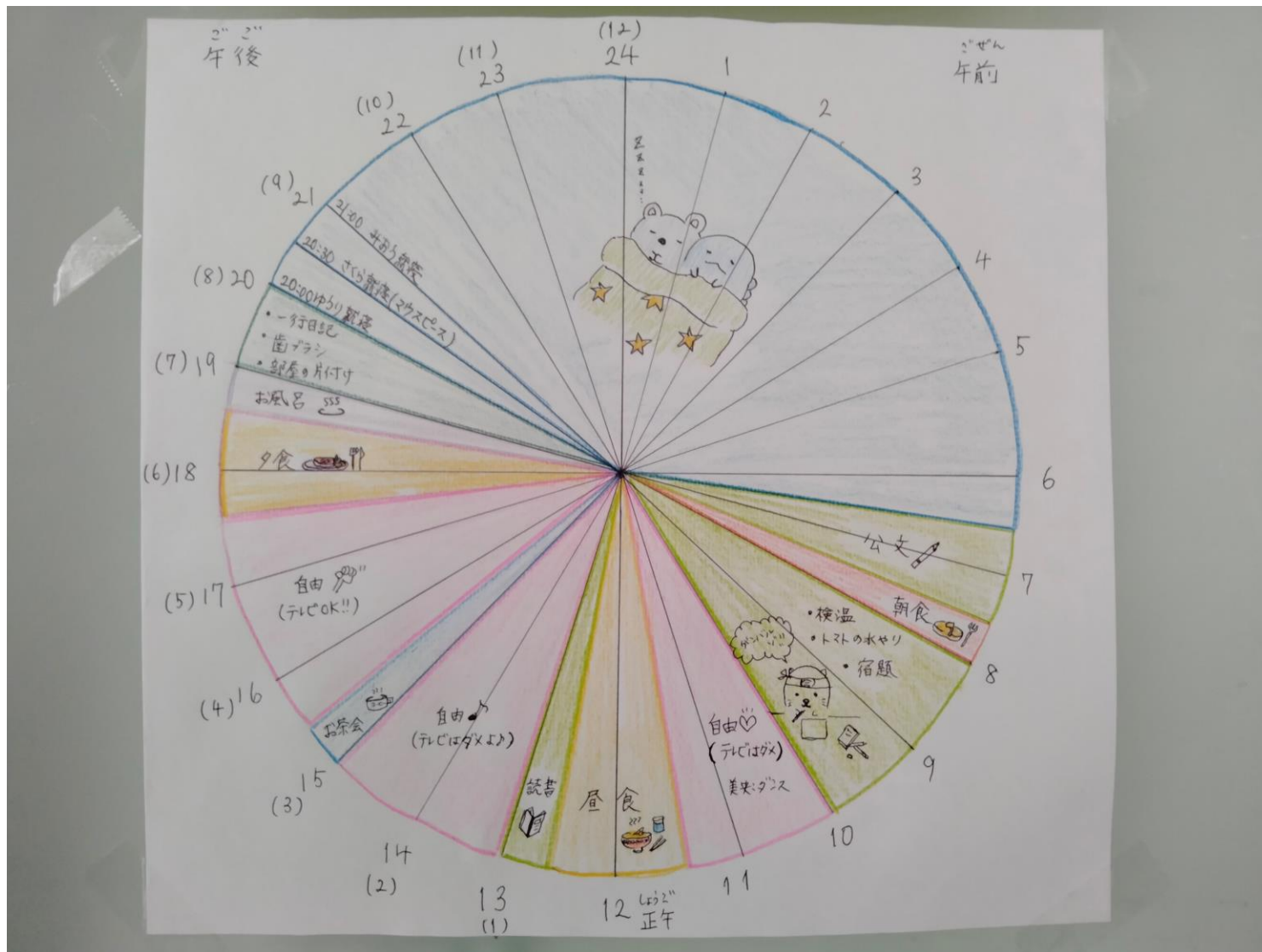
不完全結果

5km/なるべく早く走る



本人と他者との認識にズレがある

【参考資料】完全結果のスケジュール



1日の予定

夏休み、子どもを集中させるために時間管理を明確に完全結果で定義。

例)

子ども「遊ぼうよー」

親「10時から自由時間です。」

子ども「暇だよ、何やったらいいの。」

親「お昼の後は読書の時間です。」

識学的アプローチ⑥ 結果の改善

助言・アドバイスが親の役割とした場合

→こうしたらどう？こうした方が上手くいくんじゃない？

「次の結果設定」が親の役割とした場合

→テストで50点だったから、次70点取ろうと結果設定。子どもに70点取るにはどういう工夫が必要かな？と聞いて、子どもに言わせる。

解説

親がアドバイスをして、結果が悪かったら、子どもは親のアドバイスが悪かったと考え、結果が悪かったことは自分の責任ではないと考えます。また次のアドバイスを求め続けます。その方が子どもは楽だと考え、自立ができにくい方向に行きます。結果設定をすると、子どもは自発的に考えチャレンジするようになります。

結果が悪かった場合、失敗を責めるのではなく、次の行動を持ってくることを約束することで、自発的な子どもになる方向性で育児が進んでいきます。

識学的アプローチのメリット

親が子どもに関わる時間が圧縮（非生産的な時間が減る）

- ルール設定するので、説得・納得させる時間が減り、結果設定するので、やり方やアドバイスを都度都度する時間も軽減されます。
- 結果設定をすることで、都度アドバイスしたり、子どもと一緒に考える時間が削減される。
- 完全結果で明確に伝えるので、何度も言い聞かせる時間が減る。

子どものパフォーマンスが上がる

子どもはルールを守り、自発的に結果を出す方向性で生活するようになりますが、社会人になったら、ルールを守り、自発的に結果を出すことを求められます。結果として、親のストレスを最小化することは、子どものパフォーマンスが改善され、成長が促進されます。

親の役割

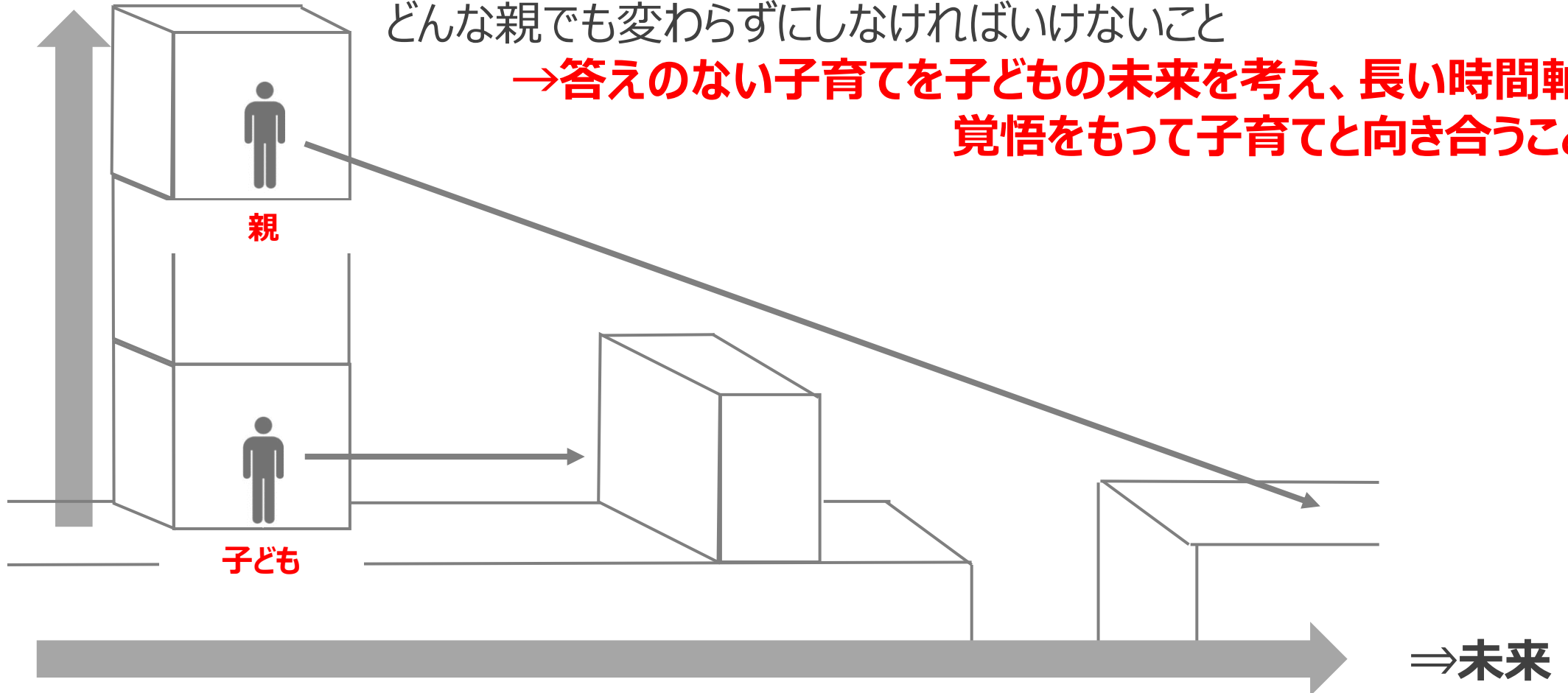
親の責任

どんな子育てをしたいか、どんな大人になって欲しいか

→**答えは人それぞれではないでしょうか。**

どんな親でも変わらずにしなければいけないこと

→**答えのない子育てを子どもの未来を考え、長い時間軸で
覚悟をもって子育てと向き合うこと。**



過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問 1

子ども4人を育てています。質問です。子どもにやる気を出させるために、何か欲しいものを買ってあげるといふような動機づけは、よくないのでしょうか？ 自分のための勉強であるので、飴でつってはダメだといふ考えもあるし、キリがなくなるといふ考えもあるでしょう。

妻はそういった手法が嫌いなため、やってほしいことをこどもがやらず、膠着状態が続き結局何もしないという結果になっており、傍から見ると歯がゆくて仕方がないのです。

ご意見をいただけると助かります。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問2

家庭の子育てや夫婦関係について、識学が有効な場面、逆に、有効な活用が難しい場面もあろうかと思えます。 私は業務上、以下の辺りが気になります。

- ・ 障害を持った子についての子育て。特に自閉症等、コミュニケーションに障害がある場合。
- ・ 教育虐待を含めた虐待防止対策。

組織であれば有益性が得られない場合、ルールが守られない場合、組織からの離脱(退職等)の選択がありますが、幼い子どもには、その選択肢がありません。組織は成長しなければ社会変化の中で劣化と同義であり、死の恐怖、必要な恐怖があります。

家庭の場合、店舗の拡大、業態の多様化といった成長スケールでの評価はマッチしない印象があります。また、人である以上、いずれ「死」は避けられず、家庭を組織として解釈することも、適切な部分もあれば、必ずしもそうでない部分もあるのではないかと想像します。そのあたりについても教えてください。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問3

親と子の位置関係

家族は組織と異なり、特に幼少期には位置の取り方、親子の関係の在り方が難しいように感じます。

我が家では識学の理論通り、親子も上下の位置があり、役割で機能していると教育していますが、以下の質問です。

- ・ 親子の正しい位置関係とは？
- ・ それは昔のような厳格な親子関係か、ゆとり世代の友達のような親子関係か？
- ・ 親子の正しい位置関係の作り方とは？
- ・ 親子の場合で識学理論の当てはまらないもの、イレギュラーがあるか？

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問4

識学では「いつまでに、何を、どのような状態で完了」という指示を上司が部下に対して明確に行っていると思います。子育てにおいて、親から子に、お手伝いやテストで点数を取ってほしいなどの場合、識学的な指示を出すと、本来学んでほしい、掃除をするとききれいになって気持ちいいことや、勉強をすると大好きな昆虫の観察が深く理解できるなどの、内発的動機が薄まってしまうことはないのでしょうか。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問5

近年できるだけ子どもをほめることによって自尊心を育てるやり方が推奨されているようで書店でもそういう本がとても多いです。識学では正しい恐怖で管理していますが、子どもに対してはどのように導入することが正しいのでしょうか。

例えば、おむつはずれができていない子に対して（身体的にはおむつはずれ準備Okの場合）、
「8月までにおむつが外れていないとプールにいけないよ。」→外れない場合は夏の間プールイベントなし。などの措置は適切でしょうか。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問6

子育て識学導入の推奨年齢があれば教えていただきたいです。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問7

良い子は良い子でも、大人にとって都合の良い子にならないか心配です。気を付ける点や、子育て識学導入にあたって、ビジネス上の識学とは異なる点がもしあれば教えていただきたいです。

過去開催時に皆様/識学社員からいただいた質問8

兄弟がいた場合は、有益性の獲得競争をさせることに違和感がありますが、その点ではいかがでしょうか。（小さいうちは〇〇ができた方とママと一緒に寝るとかになるのでしょうか。）

皆様/識学社員からいただいた質問9

中学生の娘。宿題等の最低限すべきことを、就寝直前までやっていないことがある。小学校の時は、宿題をやっていないことが多いと先生から連絡が来たこともある。本当に宿題を全部終わらせたのか聞いても「終わった」と言い切る。本当にやった気になって忘れていることもあるし、嘘をついていることもある。追求されると「あ、忘れてる！」などと言ってパニックになって、時には泣きながら就寝前に取り組む。他の家事手伝いについても同様で、なかなか着手せず、やり始めてもダラダラして終わらない。

2歳年上の兄は、時間を逆算して要領よく課題をこなせるタイプ。二人とも、動画やゲームの時間制限は同じ。就寝時間は年齢に応じて設けている。学校や習い事の宿題と家事手伝いをこなせば、それ以外の時間の使い方は自由。やる事を就寝前までに終わらせてもらいたい。

皆様/識学社員からいただいた質問10

子どもの性格も育成できる方法があれば教えて欲しいです。

皆様/識学社員からいただいた質問11

小学3年生 中学2、3年生の3人の子育て中です。スマホ、YouTubeを見る時間が長いです。。

皆様/識学社員からいただいた質問12

ルールを基に運営する会社と、ルールを決める事に拒否反応を示す家庭とのギャップにストレスを感じています。